

湖山循環バス実証運行について

1 利用状況

往復運行開始後の6月には利用者が増加傾向にあったが、7・8月は微減の傾向であり、目標の5人/便には届いていない。

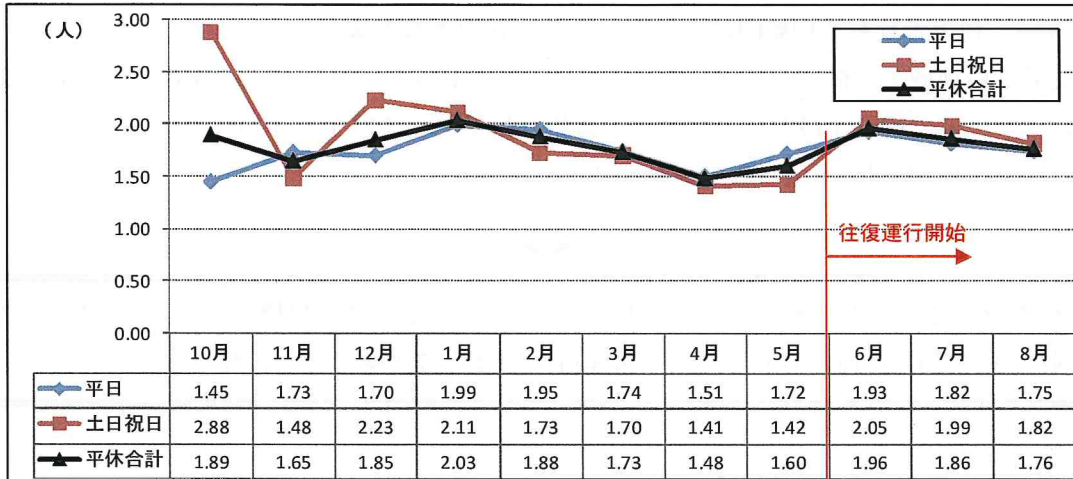


図 平休別の1便あたり利用者数 (H21. 10. 1~H22. 8. 22)

2 利用促進策「湖山ファミリー割引」の実施 (7月中旬~9月30日)

利用者増加を目指すとともに新しいルートのPRをねらい、土日祝日(夏休みは毎日)に限り、大人と同乗の子供(小学生以下)は2人まで無料とする「湖山ファミリー割引」を実施中である。

実施にあたってはチラシを作成し、沿線2,762世帯、地域内の小学校(湖山小、湖山西小、鳥大附属小)全校児童へ配布したほか、市公式HP、いなばぴよんぴよんネットにより広報を行っているが、大幅な利用者の増にはつながっていない。

3 地域住民への利用状況報告と利用のよびかけ

平成22年7月、利用状況及び1便当たり平均乗車人数目標に対して厳しい状況であること、継続運行に向け利用をよびかける文書を作成し地域住民に全戸配布した。なおその際、上記「湖山ファミリー割引」チラシも併せて配布し、利用をよびかけた。

4 アンケートの実施 (H22. 8 月上旬)

沿線世帯1,258世帯を対象にアンケートを配布し、292部の回答を得た。結果の概要(280部回収時点)は下記のとおり。

- ・利用したことがある人は約30%と、前回からは増加しているが十分ではない。
- ・利用者は湖山街道沿いの店舗や病院への利用が多いが、ルート追加した尾崎病院の利用が少ない。
- ・利用したことがない人の、湖山循環バスを利用しない主な理由は「自動車や自転車など他の移動手段があるから」と回答した方が大半を占める。
- ・一度でも湖山循環バスを利用したことがある方のうち、「今後も利用したい」という方が約57%で、「運行内容が改善されれば利用したい」という方が約29%であり、利用したいという回答が前回からやや減少している。

- ・実証運行後、「今のサービスレベルを保って運行してほしい」と回答した方は 29%、「サービスレベルを下げてでも運行してほしい」という方は 38%を占める。その反面、「本格運行する必要はない」と回答した人も 33%を占める。

5 本格運行化の検討

- ・「潜在需要の喚起」という事業目的のもと、アンケート等により住民意見を反映し、大幅なルート変更も行い、利用者数も増加傾向にあるが、十分な利用者数を確保できていない。
- ・公共交通空白地域での循環バス運行で、新たな需要を確保し、外出機会の創出にも一定の効果を発揮しているが、他の移動手段からバスへの大規模な転換にまでは至っていない。
- ・「湖山ファミリー割引」も大きな効果を発揮できなかった。



継続運行を望んでいる声も多いが、利用状況へ反映されておらず、目標の 5 人/便には届いていない。また、収支率も 20%に達しておらず、本格運行への移行は困難である状況である。

【参考：本格運行のための基準】

実証運行開始時と同様に、利用者目標は 1 便あたり 5 人とする。(5 人で収支比率 25%以上)
ただし、5 人/便に達しないものの、平成 21 年度実績の 1.8 人/便から大幅な増加がみられた場合、暫定的に継続運行することとする。

1 便あたり 平均乗車人数	収支比率	今後の 方向性	内容
5 人以上	25%超	継続	収支率が 25%以上であり、継続運行する。
5 人未満	20%超	暫定継続	目標である 5 人/便には届いていないが、収支率が 20%を超えており、利用者も増加傾向にあるため、暫定で 3ヶ月継続とする。ただし、最終的に目標の 5 人/便に達しない場合は運行終了。
	20%未満	運行終了	収支率が 20%に満たないため、運行終了とする。

6 実証運行成果の分析・活用

今後、実証運行により得られたデータの分析をすすめる。

分析結果の活用方法としては、下記を想定している。

＜当該地域における活用＞

当該地域におけるバス路線再編検討において、バス路線及び住民ニーズの現況把握、課題の抽出等に反映する。特に、鳥取市中心部方面や北ジャスコ方面への要望が強い、通勤・通学に使えるバスがほしい等、吉岡線・賀露線・JR 等との連絡を考慮したうえでの検討を実施する。

＜他地域における活用＞

- ・今後、他地域において実証運行を検討する際の参考資料とする。
- ・2 度の実施で 1,000 部近い回収を得たアンケート結果から、公共交通の利用促進やルート検討等で、他地域で活用できるものは十分に活かす。